

みずほマーケット・トピック(2024 年 11 月 15 日)

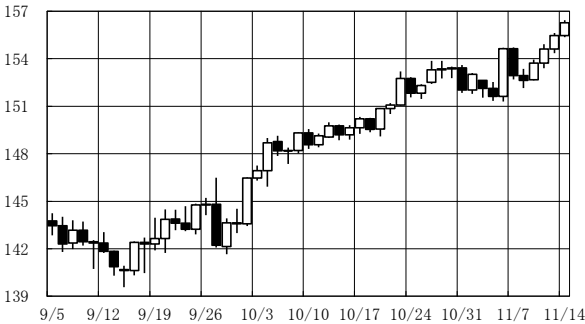
内容	1. 為替相場の動向	2. 来週の注目材料
	※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。	

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

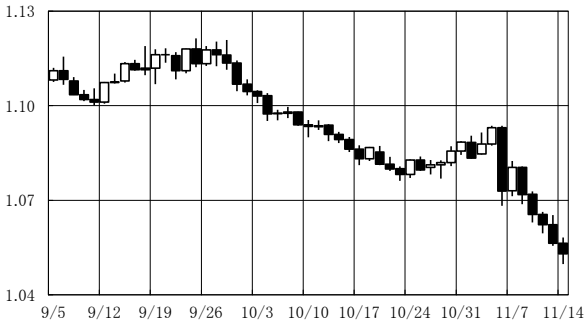
- 今週のドル/円は続伸し、約4か月ぶりの高値圏で推移している。週初11日、152.97円でオープンしたドル/円は、円売り相場の中で153円台半ばに上昇。海外時間は、米国休場で薄商いの中、米国債先物価格下落を受け153円台後半に続伸した。12日、ドル/円は153円台後半を中心にレンジ推移。海外時間は、米金利上昇を背景に一時155円手前まで上昇した。13日、ドル/円は米金利の一段高を受け155円台に乗せる展開。海外時間は、米10月消費者物価指数(CPI)の予想通りの結果を受けてドル売り優勢となり154円台前半に反落するも、その後は米金利の反転上昇に合わせ155円台後半に反発した。14日、ドル/円はドル買いの流れが継続し、156円台に乗せる展開。海外時間は、米金利低下を嫌気し一時155円台後半に下押す場面もあったが、パウエルFRB議長によるタカ派な情報発信が材料視され、結局156円台半ばに反発した。本日のドル/円は、円売りが継続する中、156円台後半と7月23日以来の高値を更新しながら取引されている。
- 今週のユーロ/ドルは続落し、実に13か月ぶりの安値を付けた。週初11日、1.0713でオープンしたユーロ/ドルは、ドル買い相場の中で1.06台前半にじり安となった。12日、ユーロ/ドルは米金利上昇や独11月ZEW景気期待指数の弱い結果などが嫌気され、一時1.06を割り込んだ。13日、ユーロ/ドルは米物価統計公表後には1.06台半ば上昇も、その後は米金利反発が重しになり、1.05台半ばに反落した。14日、ユーロ/ドルはドル買い相場が続く中で、ユーロ圏9月鉱工業生産の冴えない結果を受けた独金利低下も重しとなり、1.0496まで下げ幅を拡大した。2023年10月13日以来、1年1か月ぶりの安値水準を付けた。その後は、米金利低下が好感され、1.05台前半～半ばでレンジ推移して引けている。本日のユーロ/ドルは、引き続き1.05台前半で取引されている。

		前週末	今 週				
		11/8(Fri)	11/11(Mon)	11/12(Tue)	11/13(Wed)	11/14(Thu)	
ドル/円	東京9:00	153.15	152.97	153.52	154.66	155.52	
	High	153.36	153.95	154.92	155.63	156.41	
	Low	152.14	152.62	153.41	154.34	155.33	
	NY 17:00	152.65	153.69	154.62	155.50	156.28	
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0795	1.0713	1.0663	1.0617	1.0566	
	High	1.0805	1.0728	1.0663	1.0655	1.0583	
	Low	1.0687	1.0629	1.0595	1.0556	1.0496	
	NY 17:00	1.0719	1.0655	1.0624	1.0565	1.0531	
ユーロ/円	東京9:00	165.29	163.98	163.69	164.27	164.30	
	High	165.29	164.63	164.30	164.80	164.97	
	Low	163.26	163.63	163.25	163.64	163.84	
	NY 17:00	163.58	163.77	164.31	164.22	164.42	
日経平均株価		39,500.37	39,533.32	39,376.09	38,721.66	38,535.70	
TOPIX		2,742.15	2,739.68	2,741.52	2,708.42	2,701.22	
NYダウ工業株30種平均		43,988.99	44,293.13	43,910.98	43,958.19	43,750.86	
NASDAQ		19,286.78	19,298.76	19,281.40	19,230.73	19,107.65	
日本10年債		1.00%	1.00%	1.00%	1.04%	1.06%	
米国10年債		4.31%	-	4.43%	4.45%	4.45%	
原油価格(WTI)		70.38	68.04	68.12	68.43	68.70	
金(NY)		2,694.80	2,617.70	2,606.30	2,586.50	2,572.90	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 欧州では、19日(火)にユーロ圏10月消費者物価指数(HICP、確報)が公表予定となっている。10月31日には速報値が公表されているが、総合ベースでは+2.0%(前年比、以下同様)、コアベースでは+2.7%となり、いずれも市場予想を+0.1%ポイント上回った。総合ベースでは9月の+1.7%から3か月ぶりに伸びが反発したものの、コアベースでは9月から横ばいになっている。総合ベースでの反発は非コア項目で説明でき、例えばエネルギー価格は9月の▲6.1%から▲4.6%に下落幅を縮小させている。懸案のサービス価格は+3.9%と9月から横ばいで推移する。依然高水準だが、2023年7月を頂点に緩やかに鈍化している傾向は変わらない。ECBは10月会合で連続利下げ(▲25bp)を実施、景気の弱まりへの配慮を示したが、足許のインフレ情勢もこの姿勢を支持しているものと考えられる。
- 本邦では、22日(金)に10月消費者物価指数(CPI)が公表予定。コアCPI(生鮮食品除く)に関し、前回9月の結果は+2.4%(前年比、以下同様)と8月の+2.8%から伸びが鈍化したものの、市場予想の+2.3%を上回った。伸びが鈍化するのとは5か月ぶりだが、エネルギー価格支援策復活による寄与が大きく、技術的要因だ。実際エネルギー価格は8月の+12.0%から+6.0%に大幅に伸びが鈍化した。なおエネルギー要因も除外したコアCPIは+2.1%となっており、8月の+2.0%から僅かに伸びが加速。総じて物価は下げ止まり感、あるいは反発感があるが、賃金を反映しやすいサービス価格に目を移せば+1.3%と低位に沈んでいる。全国の結果に先んじて公表された10月東京都区部のCPIも強いとはいえない内容になっており、日銀の利上げを急かすような物価情勢には無い。なお、10月の結果(全国)に関しブルームバーグの事前予想では、総合ベースで+2.3%、コアベースで+2.2%と見込んでいる。

	本 邦	海 外
11月15日(金)	・7～9月期GDP(速報) ・9月設備稼働率 ・9月鉱工業生産(確報)	・米10月小売売上高 ・米10月輸出/輸入物価指数 ・米10月鉱工業生産
18日(月)	・9月コア機械受注	・ユーロ圏9月貿易収支 ・米11月NAHB住宅市場指数
19日(火)	—————	・ユーロ圏9月ECB経常収支 ・ユーロ圏10月消費者物価指数(確報) ・ユーロ圏7～9月期妥結賃金 ・米10月建設許可/住宅着工件数
20日(水)	・10月貿易収支 ・10月工作機械受注(確報)	・独10月生産者物価指数
21日(木)	—————	・ユーロ圏11月消費者信頼感(速報) ・米10月中古住宅販売件数
22日(金)	・10月消費者物価指数 ・11月製造業/非製造業PMI(速報)	・ユーロ圏11月製造業/非製造業PMI(速報) ・米11月製造業/非製造業PMI(速報) ・米11月シガン大学消費者マインド(確報)

【当面の主要行事日程(2024年11月～)】

ECB 政策理事会(12月12日、1月30日、3月6日)

FOMC(12月17～18日、1月28～29日、3月18～19日)

日銀金融政策決定会合(12月18～19日、1月23～24日、3月18～19日)

金融市場部

チーフマーケット・エコノミスト

唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)

daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2024年11月14日	「家計の円売り」は腰折れたのか？
2024年11月13日	内外物価格差で感じることに～欧州を訪れて～
2024年11月12日	トランプ2.0で「仮面の黒字国」が主張すべきこと
2024年11月11日	弱まる「実需の円売り」vs. 強まる「投機の円売り」
2024年11月8日	週末版(ナローバスの嵌まるFRB～「トランプ2.0はインフレ2.0」～)
2024年11月1日	週末版
2024年10月28日	総選挙を終えて～「デフレ脱却」はもう刺さらず～
2024年10月25日	週末版(政治不安とトリプル安～政局不安で「日本売り」なのか？～)
2024年10月23日	アコード修正という物価高対策～最もイージーな一手～
2024年10月22日	投機の円ロングはあと半分～問題はその後～
2024年10月21日	衆院選を受けた金融市場の想定～メインとリスク～
2024年10月18日	週末版(ECB政策理事会を終えて～対照性強まるユーロとドル～)
2024年10月17日	インフレ率「0%超」目標をどう受け止めるか？
2024年10月16日	スルーされた台湾有事～やはりなかった「リスクオフの円買い」～
2024年10月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年9月分)
	不透明過ぎる11月FOMC～1年後が気がかり～
2024年10月11日	週末版
2024年10月10日	世論が望むのは「デフレ脱却」ではなく「インフレ脱却」
2024年10月9日	失速が目立ってきたユーロ圏の経済・金融情勢
2024年10月8日	円相場の基礎的需給環境の現状と展望
2024年10月7日	円の基本シナリオに変更の必要は？～雇用統計を受けて～
2024年10月4日	週末版
2024年10月3日	日銀短観(9月調査)と日銀の「次の一手」
2024年10月2日	外貨準備構成通貨の近況について(2024年6月末時点)
2024年10月1日	「石破カラー」は当面お預け～「3年でデフレ脱却」の不安～
2024年9月30日	石破政権が市場にもたらすのは希望か、失望か
2024年9月27日	週末版(145円到達と日銀の「次の一手」～それでも「時間的な余裕はある」～)
2024年9月25日	家計資産の外貨比率は過去最高～避けたい日本版トラスショック～
2024年9月24日	改めて考える日銀10月利上げの難易度
2024年9月20日	週末版
2024年9月19日	FOMCを終えて～思い出される糊代論と今後～
2024年9月18日	自民党総裁選～各候補の立ち位置と変わらぬ前提～
2024年9月17日	円高の背景にある需給改善～金利差に限らず～
2024年9月13日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年8月分)
	週末版(ECB政策理事会を終えて～予定通りも25年以降の不透明感強く～)
2024年9月11日	ECB政策理事会プレビュー～問題は2025年以降～
2024年9月10日	衰えなかった家計部門の投資意欲～資産選別の兆候も～
2024年9月9日	デジタル赤字にまつわる誤解～米国独り勝ちというバイアス～
2024年9月6日	週末版
2024年9月5日	ドイツ産業空洞化とユーロ相場について
2024年9月4日	いよいよ注目され始めたドイツの産業空洞化
2024年9月3日	大混乱から1か月～市場は安定を取り戻したか？～
2024年8月30日	週末版
2024年8月29日	日銀の自然利子率推計について～「中立金利1%」説～
2024年8月27日	ドル売りの持続性は？～買われるユーロ、英ポンド、円～
2024年8月26日	パウエル講演を受けて～気になる労働市場への評価～
2024年8月23日	週末版(ECB政策理事会議事要旨を受けて～ユーロ相場の先行きについて～)
2024年8月21日	円ロングの積み上げが続くリスクはあるのか
2024年8月20日	企業買収を通じた対内直接投資の現状について
2024年8月19日	財PPP vs. サービスPPP～正しいのは円安か、円高か～
2024年8月16日	週末版(欧州経済の現状について～人手不足から需要不足へ～)
2024年8月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年7月分)
	ポスト岸田の考え方～金融政策の大勢に影響なし～
2024年8月14日	24年上半期の需給環境について～ほぼ均衡～
2024年8月13日	投機が去った円相場～注目は「家計の円売り」へ～
2024年8月9日	週末版(「円安バブル」報道について②～2005-07年との比較分析～)
2024年8月8日	「円安バブル」報道について①～05-07年との比較分析～
2024年8月2日	週末版(「日銀は変わった」はいつまで続くか～「やっぱり変わっていなかった」の怖さ～)
2024年8月1日	日銀会合を受けて～ドル/円相場の考え方～
2024年7月25日	週末版
2024年7月24日	インバウンド、「量」から「質」の意味するもの
2024年7月23日	バイデン撤退も市場動かず～円ショートは依然膨大～
2024年7月19日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「賃金は必ず下がる」という自信～)
2024年7月18日	日銀会合プレビュー～円高だからこそ利上げ～
2024年7月17日	進むインフレ税による財政再建～資金循環統計～
2024年7月16日	復活しつつある「インフレの輸入」～利上げへの追い風～
2024年7月12日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年6月分)
	週末版(金利差に騒がない大事さ～問題は投機が去った後～)
2024年7月11日	株価、「真正正銘のバブル超え」の読み方
2024年7月10日	最近の円相場の需給環境について
2024年7月8日	米大統領選挙、現時点の解釈～為替市場の視点～
2024年7月4日	円安功罪論について～総論と各論を分けるべし～
2024年7月3日	短観(6月調査)が意味するもの～利上げは可能か～
2024年7月2日	フランス政局の行方と金融市場への影響
2024年7月1日	24年上半期を終えて～円は真正正銘の最弱通貨～
2024年6月28日	週末版
2024年6月27日	家計金融資産の現状～外貨比率は最高値更新へ～
2024年6月25日	「隠れ円安」への正しい理解～実効円安を見る努力を～
2024年6月24日	為替政策報告書～日本のリスト入りは形式上の不備～
2024年6月21日	週末版(欧州委員会による財政是正措置勧告～フランス極右政党 vs. 欧州委員会～)
2024年6月19日	本邦5月貿易収支を受けて～思ったよりも減らない赤字～
2024年6月18日	久しぶりの欧州政治騒動～27年まで波乱無しが基本に～
2024年6月17日	日銀金融政策決定会合を終えて～上がる期待値～
2024年6月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年5月分)
	週末版
2024年6月13日	FOMCを終えて～中立金利上昇と為替見通し～
2024年6月12日	既に前年実績を超えてしまった「家計の円売り」
2024年6月11日	懸念される旅行収支黒字の頭打ちという未来
2024年6月10日	円相場の需給環境について～4月までの総括～
2024年6月7日	週末版(ECB政策理事会を終えて～利下げ局面入りへ～)
2024年6月5日	証券投資は巻き返すか？～収益率で考える未来～
2024年6月4日	敢えて考える対内直接投資促進の「負の側面」